

復興まちづくりの社会実験が始まっています

社会実験とは、アクションプランが目指す将来像を期間限定で事前に体験し、今後の方向性を探り検証するものです。検証結果を基に、将来の事業や活動の内容、公共空間の使い方、空間デザインなどに反映します。

第1弾として2～3月にSL人吉のライトアップを行ったほか、中心市街地の空き地などの利活用や整備の方向性を探るため、3月には紺屋町のうぐいす温泉前で社会実験を実施。人工芝やテーブル、ソファなどを設置し、イベントの開催や日常使いをしてもらい利用者から意見を聞きました。令和7年度もさまざまな社会実験を実施していきます。



▲週末ごとにイベントが開かれマルシェなどでにぎわった



▲夜間はライトアップすることで安全安心で心地よい夜の風景を演出



▲毎週水曜は移動図書館がやって来て、本を楽しむ場を提供



▲遠足で利用した園児はお昼ご飯を食ったりゲームをしたりして楽しんだ

アクションプランはこちらでご覧ください

人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプランは市復興支援課（市役所3階3-3番窓口）に備えているほか、市ホームページに掲載しています。



◀市ホームページ



復興まちづくりの最新情報を発信しています

市の復興まちづくり情報は、人吉市復興まちづくりデザイン会議公式SNSなどで発信しています。社会実験の開催情報もこちらで発信していますので、2次元コードからご覧ください。



▲公式note



▲公式X



▲公式Instagram



▲リンクまとめページ

まちなかグランドデザイン推進アクションプランを発表しました



市では、令和2年7月豪雨で被害が大きかった「まちなか」の将来像とプロジェクトを示した「人吉市まちなかグランドデザイン推進方針」を令和6年3月に策定。この方針を実現するための具体的なアイデア集である「人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン」を取りまとめ、3月15日の「人吉市復興まちづくりまちなかフォーラム」で発表しました。

同プランは、行政のビジョンに市民や事業者、専門家のアイデアを重ねて素案を作成。素案を基に復興まちづくりのアイデアを出し合う合同意見交換会や担い手ワークショップを開催し、市民や地域関係者、事業者と対話を重ねて完成したものです。

フォーラムには、高校生をはじめ市民や事業者、行政関係者ら約150人が参加。同プランの説明では、景観づくり、交通、夜間景観、情報発信などの考え方や、青井阿蘇神社や中川原公園といったまちなか10カ所の拠点の将来イメージを示しました。

続いて、同プランに基づき来年度に予定している社会実験として、行政が運営する仮設のハード整備や、市民らが企画するイベントなどの企画案を紹介。民間の担い手3人と専門家らによるクロストークでは、社会実験の企画者が企画内容を紹介したり、まちづくりに対する思いを語ったりしました。

▶フォーラムの様子をYouTubeで見ることができます



まちの担い手が考える社会実験の企画内容



一般社団法人らぞLABO代表理事

北 貴之 さん

「中川原公園でテントサウナやバーベキューなどを展開し、収益化につながるか検証したい」



球磨工高カヌー部主将

長谷川 結丸 さん

「カヌー部のみんなと、子どもたちにカヌーに興味を持ってもらうためのプログラムを考えたい」



SNS「人吉球磨めし」主宰

鳥飼 絵梨 さん

「オンラインでのつながりをまちづくりに生かし、生産者と飲食店をつなぐマルシェを開催したい」